



小灘一紀絵画展

日展会員賞受賞記念

■前期

■後期

2002年度日展会員賞受賞作品「めづめ」

平成16年 7月17日(土) - 8月22日(日) 8月24日(火) - 9月20日(月祝)

主催/大阪府立弥生文化博物館 後援/泉大津市教育委員会、和泉市教育委員会、(財)大阪21世紀協会、(財)堺市文化振興財団
講演会 ■場所/1階ホール

■時間/午後1時30分~3時30分 7月17日(土) 小灘一紀「名画の中の女性」
8月 3日(日) 小灘一紀「名画を見る眼Ⅰ」
小灘一紀・真鍋井蛙「対談・熊谷守一の絵画と現代絵画」
9月12日(日) 小灘一紀「名画を見る眼Ⅱ」

 大阪府立弥生文化博物館
<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

■休館日/月曜休館 ただし7月19日(月)は開館、20日(火)は休館 9月20日(月)は開館、21日(火)は休館 ■開館時間/午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで) ■入館料/一般300円[240円] 高校・大学生・65才以上200円[160円] 中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料、[]内は20名以上の団体料金 ■所在地/〒594-0083 和泉市池上町443 Tel.0725-46-2162 Fax.0725-46-2165 ■交通/JR阪和線「信太山」駅下車 徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車 徒歩20分 ■駐車場/普通車80台、大型バス7台(無料)





「赤い布」120号

真

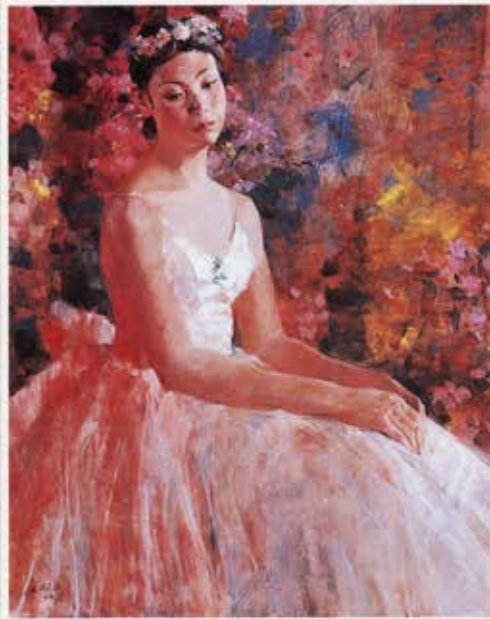
美の響き

小灘一紀絵画展

善



「再生」130号



「春宵」30号

美

「本当によい句は十句ぐらいた。十句もあれば名人だ」
 たった十七文字の「ことば」に命をかけ、美を追い求め続けた芭蕉の言葉、若い頃に読んで感銘し座右の銘としていた。
 画家を志して四十年近くになる。今もつて満足した作品が描けないでいる。絵画とは、美とは、いつも考えてきた。最近何となく、自分なりの美の「かたち」が見えはじめてきたと思いい、心がときめく瞬間がある。しかし又、瞬で無明の世界に入ってしまう。美の世界は無限で、頼りないものだ。芭蕉まではいけなかったが、その心境がよくわかる年齢になってきた。
 私だけがそう感じているのかもしれないが、最近の絵画はまた個性・新しさといった、分かったような分からないような表現に惑わされ、観念的な絵画が多くなり、どれも無機的に見えて辟易する。
 古いかもしれないが、私は芸術は、真・善・美の追求しかないし、その上で大切な美の要素は「情緒」であり、絵画上の情緒とは色・形の中に懐かしさを感じさせるものだと思う。自然から受ける感動を大切にして、写真の美を追求し続けたい。
 旧作・新作合わせて二期に分け二堂に展示していただくことになりました。何卒皆様のご高覧をお願い申し上げます。

二〇〇四年 七月 小灘一紀

小灘一紀 画歴

- | | |
|--|---|
| 1944年 鳥取県境港市生まれ | 2001年 「国領経郎の人と芸術」について講演(堺・米子) |
| 1967年 金沢美術工芸大学彫刻科卒 | 2002年 第三十四回日展会員賞受賞(作品「めざめ」) |
| 1982年 現代の裸婦展入選(日動画廊) | 2003年 第三十五回日展審査員 |
| 1992・95年 日展特選 | 米子市美術館で日展会員賞受賞記念個展と講演 |
| 1993・96年 文化庁現代美術選抜展出品 | 日展評議員に推挙 |
| 1994年 「小磯良平の魅力について」
大阪府立弥生文化博物館で講演 | 大阪市立美術館、鳥取博物館で
日展作品について講演 |
| 1997年 第二十九回日展委嘱出品
第十一回日洋会展井手直通賞受賞 | 現在 日展評議員、日洋会常任委員、堺美術協会会員、
泉北の美術を育てる会会員、河内を描く会会員 |
| 1998年 大阪なんば・米子高島屋個展
渋谷東急など個展多数、画集出版 | 作品所蔵 アラバマ州立大学、国会議事堂、堺市庁舎、
境港市庁舎、大阪府立弥生文化博物館、
余子小学校(境港市)、香港バナソニック ほか |
| 1999年 第三十一回日展審査員、
ゴラクギャラリー(東京)個展 | |
| 2000年 日展会員となる。
第三十二回日展審査員 | アトリエ 〒590-0127 堺市富蔵3337-3 |